# 唐揚げと日本酒

ドアのぶ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
唐揚げと日本酒

【Ｎコード】
Ｎ４５３０Ｉ

【作者名】
ドアのぶ

【あらすじ】
日曜日。
姉と晩御飯を製作中の一コマ

今日、日曜日の晩御飯は、肉じゃがと唐揚げ。
調理するのは、姉と僕。
両親は共働きで、週末に休むことが殆ど出来ない仕事に就いている。修理工の兄は、休みなのだが全く当てにならない。よって、派遣社員で土日休日の姉と、高校生の僕が週末の家事を担っているのである。

僕に料理の基本等を教えてくれたのは、母ではなく、姉であった。
姉は、何でもそつなくこなせて物覚えも良い人である。
小学三・四年生の頃には、難しくない料理なら作れるようになっていた。多少手間のかかるものでも、料理本を参考にしながら難なく作り上げていた。まだ十歳そこそこの姉が、一人でカツ丼を作り上げたのは、今にしてみるとなかなかに凄い事だと思う。その当時の僕は喜んでいただけだったけれど。
しかし、そんな姉にも問題が有る。
少々大雑把なところがそれにあたり、調理が進むにしたがって台所が乱雑になってしまうのである。これを何とかするのが僕の役割で、姉と調理をする時は、器具や食器の洗浄・片付けが主な仕事となる。
だが、こんなのは可愛いモノで、姉の一番の問題は別に有る。
それは、年に数回、致命的な失敗をすることである。

今日がその致命的な失敗の日だった。

これまでも様々な事を仕出かして来た。
白和えに入れる砂糖と塩の分量を逆にして、凄まじい味の物が出来上がったり。

南瓜を煮る水の分量が多すぎて、しゃびしゃびでドロドロな物が出来上がったり。
すっぱ過ぎて食べられない酢の物（酢ほぼ原液）、辛すぎて食べられない金平（妙に赤い）等々…。
この様に、普段の姉からは考えられない失敗をするのである。

そして、今日の失敗はこれまでとは一味違うモノであった。

何時もの様に姉が使って放置した調理器具を洗っていた。
姉は、肉じゃがを煮ている横で、下拵えした鶏肉を揚げる準備に取り掛かっていた。
洗い物をしている僕の耳に、トクトクと何かを注ぐ音が届く。
最初は、炒め鍋に油を注いでいるのだろうと思った。
しかし、僕が洗物に取り掛かる前に、姉は炒め鍋に油を注ぎ火にかけていたはずだ。
では、油が足りなかったのかなと、考えを改めたところで、姉が叫び声を上げた。

「ひやぁぁ！！うわぁ！うわぁ！」

声に驚いて横を向くと、慌てて火を消す姉が映る。

「え、え、なんで！？なんで、なんで！？」

現状が上手く理解できていないのか、姉は酷く混乱していた。
それ以上に僕はわけがわからない。
姉の叫び声に触発されて慌てている心を少し落ち着け、観察を試みる。
油の入った炒め鍋。肉じゃが製作中の鍋。火の消えたコンロ。混乱した姉。

ふと、姉が何かを持っていることに気付く。
紙パックの日本酒だ。
家では、料理酒の代わりに安い日本酒を使っている。
油、火、日本酒、混乱中の姉。
ここまできて、なんとなく何が起こったのかが理解できた。

「なんで私、油にお酒なんて入れてるの！？」

そう、姉は火にかけた油に日本酒を注ぎ込んだのである。
たぶん、流れはこんな感じであろう。
そろそろ鶏肉を揚げようかな。炒め鍋に油を注ぐ。火にかける。
温まるのを待つ間に肉じゃがの味をつけてよ。お酒入れなくちゃ。
だばだばだばー。…あれ？こっち……油？ひやぁ！！そして現在。

あわや、大惨事である。

まだ油の温度が上がっていなかったから良かったものの、一歩間違えば大変なことになっていた。
稀に凄い失敗をする姉だが、今回の事は流石に肝が冷えた。
命の危機は案外身近にあるものである。
まぁ、大事には至らなかったので、今後の教訓としておく。

本日の教訓、油の取り扱いには細心の注意をはらいましょう。

もう使えなくなった油を捨てて、調理を再開。
姉は、少し項垂れながらも、落ち着いて作業をこなしていた。
ちょっとした事故もあったけれど、無事に肉じゃがと唐揚げは完成。
使い終わった器具を洗っていると、姉が恥ずかしそうに言った。

「き、今日のこと、皆には、な、内緒にしておいてね」

顔を少し赤く染める姉は、とても可愛らしい。
この様な姉の姿は、シスコンの気がある僕にとっては効果抜群で、ほぼ反射的に了承していた。
元々、言いふらすつもりなど無かったので、ちょっと得した気分。
恥ずかしがる姉を見られれるのなら、失敗も偶には良いかもしれない。
命や大怪我の危険が無い限り。

こんなやりとりをしていると、両親が帰ってきた。
洗い物を終わらせ、料理をテーブルに運ぶ。
家族全員で晩御飯を食べるのが、我が家の慣わしである。

おいしく出来上がった唐揚げを食べている時、視界に入ったある人でふと気付く。
姉があれだけ騒いでも台所に現れなかった兄は、自室でいったい何をしていたのだろう…。

## （後書き）

油の取り扱いにはくれぐれも注意しましょう。
油に日本酒投入は、本当にやらかしました。

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4530i/

唐揚げと日本酒

2010年12月31日04時27分発行